

徘徊

ボケた人が歩き回ることを徘徊と言いますが、この言葉も今や一般的になつてきました。それだけ困っている人が多いということかもしれません。

実際、寝たきりのお年寄りを介護するより、ボケて徘徊する親を持った人の方が大変なのは言うまでもありません。目を離れたすきに、家を出て行ってしまふのですから。

健康な人から

見れば、ボケた人がなぜ徘徊するのか、分からないと思えますが、実は、それなりの理由があるのです。



まず、考えられるのが「家庭のイメージの違い」です。私たちは年々歳々、家庭は変化していくものだと思います。

ところが、ボケたお年寄りの頭の中には、ある時代の家庭だけが浮かんでいるのです。それは、私たちにとって過去ですが、その人には現在なのです。

ですから「自分の嫁がこんなに年を取っているわけがない」

「ここは誰の家だ」、そして「自分の家に早く帰らなければ」と、探し回るといふわけです。次に考えられるのが「恐怖心」です。

人間は本来、防衛本能が発達していますから、「ここにいたら危険だ」と思えば、逃げようとなります。「ボケた人をしからないでください」と私が繰り返す言うのはそのためです。

「しっかりとよ！」「何度言ったら分かるの！」と怖い顔をして怒鳴るのは、ボケた人の恐怖心をただあおるだけです。

そうならば、当然、逃げようと外に出る。外に出ても、どうしていいか分からないからウロウロする。これが徘徊です。

これらの対策については、別の機会にまとめて紹介しますが、とりあえず、徘徊をするお年寄りの気持ちをまず理解してあげてください。



高齢者の体シリーズ⑩

『皮膚にブツブツができて、イタ〜イ!』

副院長 八鍬秀之

皮膚が赤くなりブツブツと小さな水疱が帯状にでき、チクチクとした痛みを伴う病気が帯状疱疹です。この病気は子供がかかる、水ぼうそう（水痘）と同じ水痘・帯状疱疹ウイルスが原因です。

水痘・帯状疱疹ウイルスは、主に幼児期に水ぼうそうとして発症し1週間程度で治ります。しかしウイルスは神経節（神経細胞が集まった部分）に何十年も潜んでいます。そして免疫力が低下した時に活動し帯状疱疹が発症します。過労、ストレス、病気、加齢等が原因となります。患者さんの約70%が50歳以上の高齢者が占めると報告されています。一生のうち6〜7人に1人がかかると言われています。

症状は体の片側に小さな水疱が神経にそって帯状に出現し、ピリピリする痛みを伴います。胸部、腹部、背部に多く見られますが、四肢や顔面に起こることもあります。発疹は2週間程度で治りますが、厄介なのが痛みです。帯状疱疹後神経痛と言い、何年も痛みが残る場合があります。治療が遅れると高齢者ほど痛みが残ると言われています。高齢者は要注意です。

帯状疱疹は早期治療が大切です。



抗ウイルス剤の内服治療が一般的です。痛みを伴う発疹を見たらすぐ病院にかかりましょう。

また帯状疱疹は水ぼうそうにかかったことのない人には、水ぼうそうとしてうつる可能性がありますので、子供との接触は避けた方が良いでしょう。

帯状疱疹は免疫力の低下で発症しますので、栄養と睡眠を十分取り、規則正しい生活で予防しましょう。

